



2018年創業、蘭染屋千丁の有田有紀さん。20代から関東を拠点に、自然とアートをテーマとしたパフォーマンスアート作品の発表や、教育プロジェクトに携わってきました。

干したい草を煮出した染料に綿や麻の生地を漬け込み、空気に触れないよう優しく馴染ませていく染めの工程。温水の温度、漬け込む時間や回数などで表情の違う染め物になるとのこと。



右は藍、左はい草で染めたTシャツ。  
自然のものだからこその風合い。

工房にはこれまでの思い出深い作品や、小物の数々。



# い草から生まれる「蘭染」とは。

## 自然が色として現れる 草木染にかける想い。

広大ない草畑が広がる八代市千丁町。農家が建ち並ぶのどかな住宅地の中に草木染専門店「蘭染屋千丁」はあります。蘭染

(IZOME／いぞめ)は、八代市特産のい草を使用した手染めによる草木染です。農業がほとんど使用されてない地産のい草を染料とし、その特性を色として綿や麻の生地に込める品々は、自然本来の表情が映し出され、優しい風合いを生み出します。蘭染の他にも、藍染めや数々の染製品を手掛けていますが、どれも地元八代や熊本県内で採れた植物を染料とする地産地消へのこだわりが、郷土の色として1つ1つに表れています。

アイテムの製作を始めたといいます。自分が美しいと感じたい草に、長く作家としてモダンアートの世界に触れてきた感性を取り入れ、草木染というカタチで普及に携わる姿には、作品に込める情熱と、日本文化へのリスクペクトを強く感じ取れます。

## 郷土への感謝を込め、安らぎをもたらす作品づくり。

千丁町に工房をかまえる蘭染屋千丁。

「ここは子育てにも制作活動にも温かい土地。自分の暮らす自然豊かな町から生まれる製品に感謝の気持ちを込めてお届けしたい」と話します。少しでもい草や和文化の良さを伝える一助になればと蘭染の商標登録を取得し、自身でロゴマークのデザインコンセプトも考案しています。「現代美術の世界でみかける命のエネルギーを表現した作品のように、安らぎや心地良さを共有できる美術作品づくりを心掛けていきたい」と、まっすぐと伸びるい草のような作り手の真摯さ、郷土や家族を想う愛、そして自然そのものが染み込んだ染製品は、きっと「手に取ればわかる」品々です。

file.9

## YOUKI SUN ART WORKS 蘭染屋千丁

〒869-4703  
八代市千丁町新牟田74-1  
080-6652-5200  
10:00~18:00  
✉ @yuki\_arita



日本の誇るい草であることなど  
様々な思いを込めた「蘭染」製品  
のブランドロゴ



蘭染のスカート(左)、蘭染×五倍子染のスクエアリネンショール(右)。ふるさと納税には、蘭染や藍の生葉染のスカーフなどを登録。[撮影:カワバタマイ]



最初に有田さんにい草を提供してくれたといい草農家の清水さんご夫妻。